

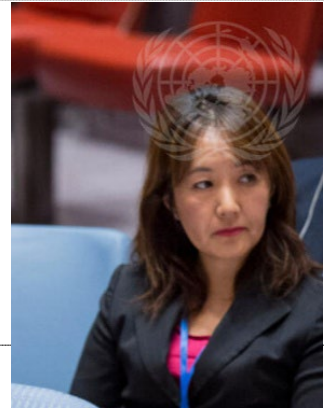
# 国際社会学部

## 中谷純江

Sumie Nakaya

国際関係コース

国際組織、紛争解決、危機管理、テクノロジー



### 国際平和と安全におけるテクノロジーの役割

科学技術の進化は国際政治にも大きな影響を与えています。サイバー攻撃、フェイクニュースによる選挙操作、無人兵器の進化などが心配される一方で、危機管理におけるデジタル活用も進み、Open Source Intelligence (OSINT)による人権侵害や軍事行動の検証、データや人工知能 (AI) に導き出されるリスク予測、衛星画像や位置情報を複合させたリアルタイムの災害・紛争マッピング、ブロックチェーンやバイオメトリクスによる人道支援配布なども取り入れられています。私はニューヨークのシンクタンクや国連本部で紛争分析・対応を長く務め、未来の世界平和と安全には新しい考え方や手法が必要だと実感しました。デジタル化によって、今までは国家や国際機関が主体となっていた外交に、一般市民が直接参加できるようになる側面もあると思います。私の授業・ゼミでは (1) デジタル化が進む世界の国際関係・国際機関と (2) 危機的状況の分析と対策における先端技術の役割を検証した上で、(3) クライシスマッピングやOSINTの初歩的な実践を行います。卒論ゼミ以外は基本的に英語で進行します。

### 研究紹介

私の研究は、(a)都市紛争など新たな武力衝突の特徴とその対応、そして (b) 国際平和と安全における科学技術の役割です。現在進行中の研究プロジェクトは、危機管理におけるAIの役割、OSINTのカリキュラム開発、アフリカにおけるロシアのハイブリッド戦などです。

AIと危機管理については英国やカタールの大学・研究所と協力し、危機的状況の予測・分析・交渉・復興において先端技術がどのような役割を負えるのかを模索しています。日本の防災技術についても研究しています。OSINTのカリキュラム開発はカリフォルニア大学バークレー校と連携しています。ソーシャルメディア追跡や画像の解析を通じて情報を検証する手法が欧米を中心に発展してきました。これを違う言語・文化環境で行う上での注意点や、国際法・人権・倫理をベースに学んでいくことで、自分たちと守るべき人を守るためのデジタル・リテラシーを学んでいきます。

### 担当授業

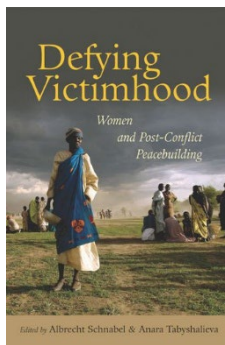
- 国際政治概論(The Changing World and the UN)
- 平和・紛争論(Past, Present, and Future of War & Peace)
- 平和・紛争論演習 (次頁)

### 関連する分野

- 国際関係
- 紛争解決
- 人権・人道支援

### 出版物

- The Palgrave Handbook of Science Diplomacy (forthcoming)
- 国際安全保障 「国連の平和維持活動の諸改革の再考」(2022)
- 国連研究 「国連と地域機構の安全保障パートナーシップのリアリティ・チェック(2022)
- Victimization, Empowerment and the Impact of UN Peacekeeping Missions on Women and Children(2012)
- Aid and transition from a war economy to an oligarchy in post-war Tajikistan (2009)



# 国際社会学部

## デジタル分析手法

### どのようなゼミか

本ゼミでは国際機関や欧米のシンクタンク、人権や人道支援団体で活用されているデジタル分析手法について学びます。その基盤となるデータがどこから来るのか、デジタルで何が分かり何が分からないのか、地域研究や語学の専門性とどのように組み合わせることができるのかを議論します。また実際にデジタル分析を行い、自らの研究テーマへの応用を考えます。デジタル分析を活用している実務家の方とも対話します。



### 卒論

- 2026年開講のため、まだ卒論はありません。

### おススメの本

- Out of the Mountains: The Coming Age of the Urban Guerrilla (2013)
- Digital Witness: Using Open Source Information for Human Rights Investigation, Documentation, and Accountability (2020)
- We Are Bellingcat: An Intelligence Agency for the People (2022)
- From Freedom Fighters to Jihadists: Human Resources of Non-State Armed Groups (2025)

軍事・紛争・人権・人道などの危機管理のテーマにおいてデジタル技術の応用が進んでいます。本ゼミでは特に

- (1) クライシス・マッピング、
- (2) OSINT、
- (3) 偽・誤情報対応

に焦点をあてます。クライシスマッピングではカリフォルニア大学ロサンゼルス校や南カリフォルニア大学との合同授業、OSINTではカリフォルニア大学バークレー校との連携も予定しています。偽・誤情報では拡散する側のTacticsなども検証していきます。

データ・デジタルともに長所も短所もあり、また正の役割も負の影響もあります。それが何なのかを把握し、どのように付き合っていくのかを模索する上で大切なのが、自らの「問い」は何なのか、なぜそれを知りたいのか、そして分かったことでどのような解決方法が見いだせるかです。これらを体系的に考えることこそ、大学で出来ることだと思っています。

現在の超高速情報社会から生成AIの時代に突入する中、デジタル・リテラシーと能力構築を推進し、次世代がデータとエビデンスを検証する姿勢と能力は民主主義の基幹となるだけではなく、社会分断を緩和し紛争を予防する鍵となると考えています。

データやデジタルに関する事前知識や統計・コーディングなどの経験は必要ありません。このゼミでは社会実装、つまりデータやデジタル技術を活用することで何が変わるのかという部分を追います。

